

西 彼 保 健 所 感 染 症 情 報

令和7年 第 51 週 令和7年12月15日 ～ 令和7年12月21日

全数把握対象感染症 発生状況

※報告日週掲載 （県作成速報：診断日週掲載）

| | |
|-------|-------------------------------|
| 一類感染症 | 報告なし |
| 二類感染症 | 報告なし |
| 三類感染症 | 報告なし |
| 四類感染症 | 報告なし |
| 五類感染症 | 【第51週】百日咳 患者2名（10代・女性、10代・男性） |

定点把握の対象となる5類感染症発生状況（定点医療機関当たり患者数） ↑;前週より増加 ↑↑;2週連続増加 ↑↑↑;急増

| 疾病名 | 週別 発生状況 | | 基準値 | | | 疾病名 | 週別 発生状況 | | 基準値 | | |
|---------------|----------|---------|-------|----|----------------|--------------------|---------|---------|-------|-----|----------------|
| | | | 警報レベル | | 注意 報レベ ル | | | | 警報レベル | | 注意 報レベ ル |
| | 50 週 | 51 週 | 開始 | 終息 | | | 50 週 | 51 週 | 開始 | 終息 | |
| インフルエンザ定点 | 52.4 警報 | 42.6 警報 | 30 | 10 | 10 | 突発性発しん | 0.33 ↑ | 1.33 ↑↑ | | | |
| COVID-19 | 0.40 | 0.40 | | | | ヘルパンギーナ | 0.00 | 0.00 | 6 | 2 | |
| 急性呼吸器感染症（ARI） | 118.4 ↑↑ | 93.0 | | | | 流行性耳下腺炎 | 0.00 | 0.00 | 6 | 2 | 3 |
| R Sウイルス感染症 | 0.00 | 0.00 | | | | 急性出血性結膜炎 | 0.00 | 0.00 | 1 | 0.1 | |
| 咽頭結膜熱 | 0.67 ↑ | 0.00 | 3 | 1 | | 流行性角結膜炎 | 1.00 | 0.00 | 8 | 4 | |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 2.33 | 3.33 ↑ | 8 | 4 | | 細菌性髄膜炎 | 0.00 | 0.00 | | | |
| 感染性胃腸炎 | 5.33 ↑ | 3.33 | 20 | 12 | | 無菌性髄膜炎 | 0.00 | 0.00 | | | |
| 水痘 | 0.00 | 0.67 | 2 | 1 | 1 | マイコプラズマ肺炎 | 1.00 | 1.00 | | | |
| 手足口病 | 0.33 | 0.00 | 5 | 2 | | クラミジア肺炎 | 0.00 | 0.00 | | | |
| 伝染性紅斑（リンゴ病） | 1.33 警報 | 1.00 警報 | 2 | 1 | | 感染性胃腸炎 （ロタウイルス） | 0.00 | 0.00 | | | |

トピックス・季節情報

年末年始に海外渡航を計画されている皆さまへ

- 海外においては、日本に存在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症があります。
- 海外で注意すべき感染症に対する正しい知識と予防方法を身に付けることが大切です。



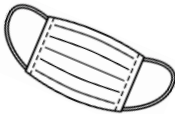
※海外渡航、特に開発途上国に渡航した後、少なくとも6か月の間は、渡航関連の感染症が生じる可能性があります。渡航後に体調不良を感じたら早めに医療機関を受診し、必ず海外に渡航したことを告げましょう。



厚生労働省ホームページ
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou18/index_00003.html
厚生労働省検疫所 <https://www.forth.go.jp/index.html>

インフルエンザ情報

前週に比べ患者数は減少しましたが、警報レベルでの減少のため、引き続き感染予防に努めましょう。



✓咳エチケット ✓手指衛生 ✓換気 ✓十分な休養 ✓バランスの取れた食事

突発性発しんが急増しています

- 乳児期に罹患することが多く、突然の高熱と解熱前後の発疹を特徴とするウイルス感染症です。
- 5歳以上はまれで、2～3 歳頃までにほとんどの小児が抗体陽性となります。
- 初感染時の潜伏期は、約10日と推定されています。
- 予後は一般的に良好ですが、稀に熱性けいれん、脳炎等をはじめとする中枢神経合併症を併発したり、劇症肝炎、血小板減少性紫斑病など重篤な合併症をおこすことがあります。
- 主要な感染経路は既感染成人からの水平感染と考えられており、唾液や鼻汁中に排泄されたウイルスが経口的あるいは経気道（飛沫）的に感染すると考えられています。
- 特別な予防法や予防接種はありませんので、一般的な感染症対策（タオルの共用等を避ける、手指衛生の励行、マスクの着用等）を行いましょう。

